

Mマガジン・サポーター(店舗情報の詳細は「音楽好きな友の会」公式サイトにてご確認ください)

Table listing various music-related businesses and services across different districts like Motoyoshi, Arai, and Utsunomiya. Includes categories like public facilities, music schools, cafes, and record stores.

▲上記、サポーター記載は無料です。



MAGAZINE

Motosumiyoshi Music Mate Meet Memories

A Free Magazine that Promotes Regional Revitalization through Music

Mマガジン

2021年2月16日号
1月16日発行
(毎月16日発行)
第72号
発行・編集人:塚田親一
発行:音楽好きな友の会
川崎市中原区木月2-21-32
TEL 090-9398-2889

2021-2-16-800 Printing RK

M 2021 February MAGAZINE

Motosumiyoshi Music Mate Meet Memories

音友レコード倶楽部
新型コロナウィルスの感染拡大予防として2月の集いは中止となりました。

Photo: Yoshiro Yasuda



片山裕子(かたやまゆうこ):ピアニスト。桐朋学園大学を経て研究科を修了後、同大学の演奏員として勤務する。その後シュトゥットガルト国立音楽大学にて歌曲伴奏法・解釈について学び帰国。主に器楽や声楽との共演ピアニストとして活動している。映画[カルテット! 人生のオペラハウス]のジャパンプレミア試写会、BS-TBS[日本名曲アルバム]、テレビ朝日「関ジャニ∞のTheモーツァルト 音楽王No.1決定戦」等メディア出演も積極的に行う他、イベントや式典での演奏も多い。

連載17 そして音楽の旅は続く

Charの事務所で裏方に徹して解った事。



*Char(チャ):ギタリスト、シンガーソングライター、音楽プロデューサー。「気絶するほど悩ましい」は有名。

NSPのリーダー天野滋さんの曲でデビューして、全国キャンペーンをしましたが残念ながらヒットしませんでした。ヒットしなければ次のレコードのお話にもアルバムのお話にも、専属契約の更新もありません。ずいぶん長い間ヤマハに育てていただきましたが、そろそろ自分の身の振り方を考える時がきたようです。

ちょうどその頃、担当ディレクターの萩原さんが音楽制作会社を立ち上げました。萩原さんが育てていたCharの事務所です。ありがたいことに私はその事務所に雇ってもらえることになりました。でもアーティストとしてではなく、オフィスで経理やファンクラブ運営、マネージャー補佐として。

萩原さんに拾ってもらって本当に感謝しています。ヤマハとの契約が

切れれば住む家もなくなり、引越代も家賃も光熱費も必要で、文字通り路頭に迷うところでした。この頃、Charは大ブレイクのスタートをしたところで、事務所はてんでこ舞いの忙しさでした。みんなの持ってくる領収書の精算や帳簿付けを必死にやりましたが、今の様にPCが無かったので昔は全て手書き。間違いの多い私の付けた帳簿は赤線と訂正印だらけでした。初めてのオフィスワークなので電話の受け答えも難しかったなあ。もちろん次第に慣れていき、そのうち落ち着いて周りを観察するようになりました。これまでヤマハでは、音楽を創ることをたくさん経験させて貰いました。今この事務所で私が学ぶのは、マネージメントの勉強です。仕事を取ってくること、収支を見る事です。この事務所は強力なプレーンを持っていたので、それぞれが力を出し合ってCharを売り出し、軌道に乗っていました。お付き合いのある関係者は揃って有力者でした。どなたにお会いしても学びの多い人物だらけで、楽しかったです。

アーティスト本人が魅力を持っていることは当然ですが、売れっ子を産み出すプレーンの凄さを目の当たりにすることになりました。とにかく忙し

ジャズボーカリスト 星乃けい official website https://www.hoshinokei.com

い!お休みは殆ど取れず、放送局や取材の問い合わせなどで電話が鳴りっぱなし。アーティストの目線しかなかった私は、ここで裏方の大変さを身をもって思い知りました。

ヤマハにいたときのスケジュールはマネージャーが放送局などに電話して足を運んで、お願いしてお願いして、やっと取れた仕事だった。わがまま言って困らせたと、丸く収めてくれたのも裏方のスタッフ。ヤマハを辞めてからは遅いのですが、スタッフの皆様本当にありがとうと伝えたいな。

今月はバレンタインデーがありますね。愛の告白もいいけれど、ありがとうを伝える日だったら、もっともっと素敵。



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をリリース。ジャズファン、ジャズメン、オーディオファンから高く評価支持される

島倉 学ミュージックスクール
驚くほど歌い方が上達する「島倉 学メソッド」
歌が人生を変える 音楽は決して貴方を裏切らない

島倉 学ミュージックスクール
プロ志望専門ヴォイス・トレーニング
30分無料体験レッスン実施中!
【レッスンスタジオ】元住吉駅西口 徒歩5分
島倉音楽スタジオ
〒211-0025 神奈川県川崎市中原区木月3-35-1 ART FLATS B1F(106号)

川崎市国際交流センター
外国人市民による日本語スピーチコンテスト
日時:2021年 2月6日(土) 13:00~15:30
場所:川崎市国際交流センター



お問い合わせ
川崎市国際交流センター
TEL 044-435-7000
FAX 044-435-7010
E-mail:kiankawasaki@kian.or.jp
川崎市中原区木月祇園町2-2
元住吉駅から徒歩10分

今年オンライン配信!
QRコードからアクセスください。
https://www.kian.or.jp/spa/

川崎市生涯学習プラザ 1階ロビー
第97回 ランチタイム・ロビーコンサート
日時:2月4日(木) 12:00開場/12:10開演/12:40終演予定
場所:川崎市生涯学習プラザ 1階ロビー
料金:無料



お問い合わせ
(公財)川崎市生涯学習財団
総務室 総務係
ロビーコンサート担当
TEL 044-733-5560
E-mail:concert@kpa.or.jp
川崎市中原区今井南町28-41

曲目:
1.パリの空の下
2.エルチョクロ(タンゴ)
3.リベルタンゴ
4.マリネラ
5.オブリビオン(忘却) など

音楽好きな友の会(音友会)
恒例の「音友レコード倶楽部」
2月のレコードコンサートは中止となりました。

音友レコード倶楽部は国際交流センターレセプションルームで。

参加費:高校生以下は500円です。ぜひ一度参加してみてください。

音友会メンバーから新曲が誕生!

シンガーソングライターの牧野憲人が、新曲「鏡の街」をリリースしました。音楽好きな友の会機関誌「Mマガジン」

2021年、円盤を知らない世代の皆さんも楽しんでください。

レコードを、レコードの音を知らない、ジェットストリームを知らない、ジャズを知らない、レコード世代の皆さんと一期一会のお話をしてみませんか。

当日DJ(選曲者)がジャズ、軽音楽のレジェ(簡単な説明書)配布で進行します。当日の予告は音友会のHPのMマガジンで確認してください。高校生以下の皆さんにも気軽に参加して時代を楽しんでもらえるようにしました。(参加の場合には保護者の方に一言お願いします。)

じら座の牧野憲人さんが歌ってくれると快諾、つかさず編曲・演奏のカラオケを制作、リモートワークを重ね完成した。神山と西郷は、デザイナーとコピーライターとして長年広告の世界でともに仕事をしていた。今回は作詞と作曲といった音楽の世界で初めて、共同作品として発表する。

もともとこの楽曲はミュージックビデオの動画制作が目的であったが新型コロナ感染の波にははまれ、昨年12月に予定していた静岡浜松での撮影が延期となってしまった。

牧野憲人はシンガーソングライターで他者の曲をカバーするのは初体験。本人も新しいチャレンジと歌い込んだ。ぜひ聞いていただきたい。ontomo.jp.mottonclub.com発信中。

Kent Makino 鏡の街

連載10 団塊じいのジャケ買い履歴

フォークソングと自己表現。 神山 昇



▲古い船をいま動かせるのは古い水夫じゃないだろう/広島フォーク村ジャケットの中の写真は高島史郎をはじめ友人のカメラマンの作品だった。

1970年、親友のカメラマンが大学の友人の伝手で広島フォークソングの旗手達がLPを出すのでアルバムの写真を提供しなくてはならない、お前もデザインで協力してくれないかと話があった。

古くは1940年、カントリー・ミュージックの保守的な歌詞に嫌気がさして、現実の社会の出来事を歌い出したウディ・ガスリーが始まりだったか定か

ではないが、ベトナム戦争に反対する個の意志を歌うフォークソングがアメリカで盛んになって来た。そう、ボブ・ディラン、ピーター・ポール&マリーの歌が日本に入り込んで来たのだ。

私のフォークソングは岡林信康で始まった。「山谷ブルース」が学園紛争の当事者だった私に、鮮烈にしみ込んだ。

そして、音楽はスターやプロが歌うのを聴くだけではない。自分が下手だろうと言いたい歌があれば歌っていいんだと思うようになった。

兄の影響で古賀メロディーや「禁じられた遊び」をポロンポロンと引いていた私は歌う事にも目覚めてしまった。

広島フォーク村のレコードジャケットの話は、その頃だった。四ツ谷の音楽事務所に行くとき、五人の若者…私は22歳になっていたから彼らは若く見えた。写真を選ぶ段階になるとデザイナーではないがレイアウトをする方がすでに決まっていた。偉そうにしていた私は何故か恥ずかしくなってそっと抜け出した。夜になって戻って来たカメラマンは「とんでもなく生意気な奴が一人居てさ、危うく取っ組み合いになりそうだった」と愚痴った。その生意気な方は「吉田拓郎」だった。

私は「岡林信康」に始まり、岡林でフォークは終わった。後に、かくや姫や井上陽水も楽しんだがレコードを聴くとやがてやはりモダンジャズを始め、ロック等、私の価値観では洋楽に敵わなかった。

日比谷の野音で「日本のフォークとロックのコンサート」をやるからポスターを創ってくれと依頼が来たのもその頃だった。頭脳警察、はっぴいえんど、高田渡、南正人…蒼々たるメンバーが出る。しかし、印刷代もままならない、持ち出し覚悟なら言う条件だった。躊躇なく引き受けたが小声で、俺たちの「ソリドール」というバンドも出演できれば…と冗談半分で言ってみた。私に頼みに来た主催者の一人、その男は長髪でほろをまとい、全く信用できそうも無かったが「いいよ」と。おそろおそろ野音に出かけると「すぐに番だから」と。

びっしりと会場は観客で埋まっており、もたもたしている暇無く舞台上押し出された。私達は前衛音楽と言えれば聞こえが良いが、即興楽団だった。(つづく)

特別寄稿 Music Conversations 音友レコード倶楽部・音楽談義 1970~80年代に聴いたLPを振り返って

藤田 順治

本来ならばこの時期に小坂忠氏の「HORO」という素敵なLPアルバムを紹介していたのですが、このコロナ感染拡大対策のためレコードコンサートの開催が中止となりました。このアルバムについてはまた次の機会にご紹介したいと思います。このアルバム中の「ほうろう」という曲の「今はほうろう、いつもほうろう」という歌詞の通り、学生時代は1日中レコード屋めぐりという日々を過ごした事もありました。

この頃、音楽音源を探すと「ニューミュージック・マガジン」や「アドリブ」等の音楽雑誌、FMラジオ、あるいは友人等からの情報で入手していました。その中でも雑誌は重宝しており、記載されている輸入盤レコード専門店の情報は参考になりました。当時のレコード店は小規模なものが多く、外国から直接買い付けられるレコード店が増えたのもこの時期であります。まだHMVやタワーレコードなど外資系の大型チェーン店は存在しなかった時代です。原宿竹下通りの「メロディーハウス」、青山骨董通りの「バード・パイパー・ハウス」など今や伝説となっている店もこの頃、

出現しました。私もよくこれらのレコード店に通い、お店が推薦するアルバムや好きなミュージシャンのアルバムをエサ箱(レコード箱)から見つけ出し、買いあさったものです。これらの中で売り残らなかったり、流行から取り残されたアルバムはカット版と言ってレコードジャケットの端に穴を空けたり、角の部分を切ったりして通常盤より安く売られていました。また、必ずといってよい程、各店舗ではバーゲンセールが年に数回あり、それが当時楽しみでもありました。今回、紹介するポップス・アルバムも当時これらの店舗で売られていたものです。その内、私が印象に残った曲を集めてみましたので興味がある方はご購入し、お聴きになっていただければと思います。

積んだ努力家です。このアルバムはドゥービー・ブラザーズやリトル・フィートをプロデュースしたテッド・テンブルマンが制作した1978年発表のファースト・アルバムです。このなかで「ロッタラブ」というニール・ヤングの曲がいきなりヒットします。ジャケットの写真は日本の女子中学生のようなおさげ髪ですが既にこの時26歳というから驚きます。このアルバムからは他にも「ルンバ・ガール」や「ギヴ・ア・リトル」などがシングルカットされました。その後も次々とアルバムを発表し1985年以降はカントリーのジャンルでチャート・インされるようになりました。その後ジェームズ・テラーのバックバンドなどで活躍する名ドラマー、ラス・カンケルと結婚し、1990年に娘を出産、子育てに専念していましたが、1997年に45歳という若さで脳腫瘍により他界しました。

「ニコレット/ニコレット・ラーソン」

(写真①)

ニコレット・ラーソンはエミルー・ハリス、ニール・ヤング、ビーチ・ボーイズ、リトル・フィートなどのツアー・メンバーやレコーディングに参加して、リンダ・ロンシュタットとは同居までして音楽修業を

「ラヴ・ミー・アゲイン/リタ・クーリッジ」

(写真②)

当初、ジョー・コッカーのマッド・ドッグス&イングリッシュマンやデラニー&ボニー・フレンズなどのバンドに参加し、

「チャックス・イン・ラブ」も全米4位のヒットとなり、グラミー賞の最優秀新人賞を受賞しています。一時期レコーディング活動を中止していましたが、現在はまた精神的に活動を続けている様です。

「イタリアン・グラフィティ/ニック・デカロ」

(写真④)

若い時はあの名プロデューサーのトミー・リ・ビュマーとバンドを組んで、このアルバムも彼がプロデュースし、エンジニアは名コンビであるアル・シュミットです。アレンジャーとして活躍し、特にストリングスの編曲が得意で1978年発表のこのアルバムは彼の決してうまいとは言いが甘い歌声が聴けます。また、バックメンバーもその手の優れたミュージシャンが参加した隠れた名盤中の名盤です。特にジャズのスタンダードナンバーである

「ティー・フォー・ツー」は秀逸の一言です。このあと山下達郎の楽曲を集めたアルバムも発表しますが、1994年に心臓病の為、他界してしまいます。

「ギヴ・ミー・ブレイク/ビル・ハウス」

(写真⑤)

70年代後期に盛り上がったAORの流れを先取りしたかのような上質の1974年発表のLAポップ名盤です。ジャケットはダサくても(風貌が芸人ロジック中似)中身は黄昏ときのメロウな感覚を滲ませています。全ての曲が心地よいですが、特にトロンボーンのリフがかっこよい2曲目の「バッド・ラック・イントゥ・グッド・タイムズ」が私は大好きです。プロデュースはブルース・ジョンストンとテリー・メルチャーというピーチ・ボーイズ人脈です。

ステイホームのこの時期、たまには好きな曲を聴きながら、のんびりとした心安らく時間もとってください。



▲① Nicolette/ Nicolette Larson



▲② Love Me Again/ Rita Coolidge



▲③ Rickie Lee Jones/ Rickie Lee Jones



▲④ Italian Graffiti/ Nick Decaro



▲⑤ Give me Break/ Bill House

連載50 4ビートに首ったけ 最終回

やっぱり、最後はブルーノート 私にとってジャズの原点はここです! 長谷部 徹

ブルーノートレーベルのジャズにハマったのはこの1曲を聴いた時でした。その曲とはこの連載のNO.1でご紹介させていただいた、ドナルド・バードの「My Girl Shir」です。もう4年以上前の事になってしまったので、ここで一度ご紹介させていただきます。ブルーノートレーベルでバリバリ活躍した他のトランベッターも併せてご紹介いたします。

まず1曲目はリー・モーガン(tp)、1957年から58年の録音「CANDY」(写真①)です。このアルバムを聴く限り、信じられないのだけれど、この時、彼は若年20歳。早熟の天才だったんですね。艶やかで華やかな演奏スタイルは彼の人生そのもので、1972年2月、雪のマンハッタン、ジャズクラブ「スラッグス」でのライブの休憩時間に年上の愛人によって射殺されてしまいました。早すぎる才能の開花は早すぎる終わりを招いてしまったのでしょうか。お勧めは、1曲目「Candy」で間違い無しです。明るい色調の曲で、彼の吹くトランベットの音が空中でキラキラ輝いているようです。ひとつひとつのフレーズに艶があり、濃淡があり、思わず引き込まれてしまいます。このアルバムは全体を通してそんな感じで、捨て曲無しの名盤と言っていいのではないのでしょうか?

続いてご紹介するのはフレディ・ハバード(tp)、1960年6月録音「OPEN SESAME」(写真②)。1曲目に比べると、かなりブルージーで薄暗い夜のイメージのアルバムです。また、この頃になるとハード・バップから新主流派と言

うちょっとモダンなイメージの曲調に緩やかに移行してゆく時期なのですが、彼はしっかりとその流れをキャッチし、ホットな中にもクールなテイストを織り交ぜていました。また、この連載のNO.6でご紹介したティナ・ブルックス(ts)が共演していて、黒々としたテナーはもちろんカッコイイのですが、彼は曲も提供していて、作曲者としても才能があったことがわかります。お勧めはまず1曲目「Open Sesame」。スピード感があり、トランベッターとテナーのユニゾンがカッコイイ曲です。また、ソロパートではダイナミックなフレーズが淀み無く溢れ出てきて聴き応えがありますよ。続いて3曲目「Gypsy Blue」。エキゾチックでどこか東洋的なテーマが印象的で、ブルージーなハードバップに仕上がっています。ティナ(ts)、フレディ(tp)、マッコイ(p)と続くソロパートがどれもカッコ良く痺れます。若さ日のマッコイ・タイナーのピアノも新鮮で楽しいですね。

最後にご紹介するのはドナルド・バード(tp)が1960年1月と7月に録音した「BYRD IN FLIGHT」(写真③)です。今日ご紹介した3人の中では一番ソウルフルで爽快なプレイをしますが、それだけでなく、メロディアスで知性的な1面も持っています。お勧めは1曲目「Ghana」。題名通りアフリカっぽいドラムから始まり、ドラマティックなテーマへと続きます。ドナルドのアドリブはまるで楽譜に書いたようにスムーズで綺麗です。その後、デューク・ピアソン(p)のソロの入りがいかにシテる。ドナルドの最後

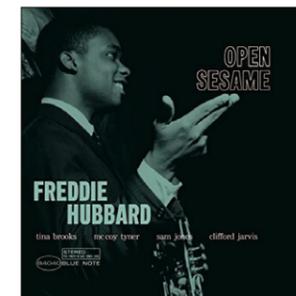
のフレーズをそのまま使いつつアドリブやかに移行してゆく時期なのですが、彼はしっかりとその流れをキャッチし、ホットな中にもクールなテイストを織り交ぜていました。また、この連載のNO.6でご紹介したティナ・ブルックス(ts)が共演していて、黒々としたテナーはもちろんカッコイイのですが、彼は曲も提供していて、作曲者としても才能があったことがわかります。お勧めはまず1曲目「Open Sesame」。スピード感があり、トランベッターとテナーのユニゾンがカッコイイ曲です。また、ソロパートではダイナミックなフレーズが淀み無く溢れ出てきて聴き応えがありますよ。続いて3曲目「Gypsy Blue」。エキゾチックでどこか東洋的なテーマが印象的で、ブルージーなハードバップに仕上がっています。ティナ(ts)、フレディ(tp)、マッコイ(p)と続くソロパートがどれもカッコ良く痺れます。若さ日のマッコイ・タイナーのピアノも新鮮で楽しいですね。

この連載も今回で50回目になりました。ご紹介したアルバムも100枚を超え、そろそろネタも尽きてきたので、こちらで筆を置こうと思います。4年以上にわたりご愛読いただきありがとうございます。たどえ1枚でも、皆様のお気に入りに加わったアルバムがあれば、それに勝る喜びはありません。毎月この連載を書く為に、それぞれのアルバムをじっくりと聴き直していたのですが、その度に新たな発見、感動、驚きなどがあり、より深くその音楽に関わる事ができました。きっと私が一番楽しんでいたのでしょう。また、長い期間、このスペースを用意していただいた音友会の皆様、この場を借りてお礼申し上げます。

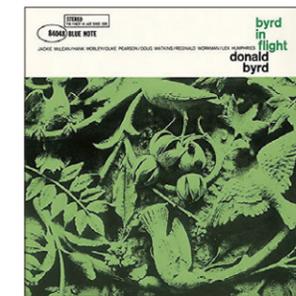
音楽はいつもそこにあります。そして、いつでもあなたの人生に彩りを加えてくれるでしょう。新しい音楽でも、古い音楽でも良いので、これからも素晴らしい音楽と出会えますように。それが私の望みです。ありがとうございました。



▲① Candy/Lee Morgan



▲② Open Sesame/Freddie Hubbard



▲③ Byrd in Flight/Donald Byrd

連載53 「くじら座」日記

鯨の競りと今年の抱負

牧野 小み



突然ですが皆様、鯨を食べたことはありますか?この答えは年代によって分かれるのではないのでしょうか。というのも、日本では1988年以降昨年末まで商業捕鯨を行いませんでした。この間に鯨肉を口にしたい人は一体どのくらいいるでしょう。

ちなみに私は積極的においしく食べています!というのも数年前、私はご縁あって鯨食普及応援ソングを制作させて頂きました。楽曲制作にあたって鯨食の歴史や文化を調べていると、私の地元である北海道網走でも捕鯨が行われていたことを知り、しかし恥ずかしながら自分の地元の産業を全然知らなかったことに直面しました。「もっと知りたい!」と思ったことが、現在の肩書き「水産系シンガーソングライター」を名乗る転機でした。

時を経て先日、46年ぶりに生の鯨肉が水揚げされるということで、仙台中央卸売市場での競りに立ち会うという貴重な経験をしました。残念ながら新型コロナウイルスの影響で当初予定していた歌唱パフォーマンス

は中止となりましたが、市場に入れて頂き感謝。当時は無我夢中だったけれど、不成熟なりに向き合っただけで、書いちゃった!そしてせっかく見た景色と魅力を、自分なりに消化して皆様にお伝えしたいという想いです。

競りでは、鯨の最高級部位である「尾の身」という部分が、気付いたらなんと1kg5万円の値が付いていました。すごいですね!競りはびっくりするくらいBPMは全くわからなかったです。2021年の抱負として、私は英語をがんばろうと思っているのですが競りに比べたら簡単な気がしています。皆様の今年の抱負はいかがでしょうか?

連載34 Course: Addicted to Guitar

スウィープピッキングに挑戦 その4

永瀬 晋

今月もまたギターを始めたばかりの方にお勧めなギター小ネタをソウリーヴ・ミュージック・スクール永瀬がお送りいたします。

今回は「Am3本弦型スウィープピッキングのポジション紹介」を進めていきましたが、今回はそのバリエーションとして、5本弦型、6本弦型のご紹介です。まずは一目目5本弦型はCAGEDのA型。これはAmの形でルートを5Fに持ってきていただくイメージしやすいと思います。

そして二個目は6本弦型CAGEDのE型。これはローコードのEmのコードを

イメージしていただき、ルートをAにするのが分かりやすいと思います。

このような感じでやろうと思えばあらゆる弦の本数でアルペジオを弾くことができます。

使用弦の本数が増えるほどスウィープピッキングの動きが増えてきて、



響きも独特の音程差の広いサウンドになります。

弾くこと自体もそれなりに難しいので、右手の強化では是非挑戦してみてくださいませ!

ではまた次回!

Flowers and Plants Bianca

フレンチスタイルのフラワーショップ

元住吉駅より徒歩3分の所にあるフラワーショップ「Bianca」です。ギフト用花束、アレンジメントなどをフレンチテイストでお作りいたします。誕生日や記念日の大切な方へのプレゼント、また、お仕事用の贈答品としてお使いいただければ幸いです。全国に発送いたします。

Flowers & Plants BIANCA

211-0025 川崎市中原区木月1-26-19/レイユドミ1F

TEL・FAX 044-422-7015

bianca@flower.email.ne.jp

ソウリーヴ・ミュージック・スクール Souleave Music School

http://souleave-music.com/

元住吉駅徒歩3分、武蔵小杉駅徒歩13分

チケット制 音楽教室 Tel 044-750-8992

AM8:00/PM22:00start

地域の、全国のミュージシャン、そして音楽活動に関わるあらゆる人をネットワークしたい。演奏の場を創り、ライブと楽曲の発信を積極的に活動していくことが目的です。元住吉から世界に向けて発信して行きます。アーティストメンバー募集中!!

登録アーティストメンバーが演奏動画を配信しています。近郊で企画、運営可能なスタッフメンバーを募集中です。演奏者の方々に「モットンクラブ」から発信希望の演奏動画を募集しています。

MOTTON CLUB